

第5回懇談会における意見一覧

資料1

No.	会議体	主な分野・該当箇所	発言者	ご意見・お考え（次期計画への検討事項）
1	第5回懇談会	未来を拓く原動力	東京都立大学教授 市古太郎 氏	「未来を拓く原動力」に「共創」とあるが、「連携」やこれまで進めてきた「協働」との違いは何か。言葉の定義は色々あっていいと思うが、例えば、「協働から共創へ」等のように、意味合いは紙面で言及いただきたい。
2	第5回懇談会	未来を拓く原動力	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	「地域自治」という言葉に硬い印象、古い印象を受けた。実態として幅広い市民参加が行われており、そういった意味合いも含めていると思うが、「市民参加」などの言葉の方が良いのではないかと。「自治」の前段階として「参加」があり、多様な主体の参加を前提として自治につながるの、「自治」が狭義に感じる。「原動力」という意味では「参加」を強調してもよいと思う。
3	第5回懇談会	未来を拓く原動力	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	「共創」は馴染みのない表現である。
4	第5回懇談会	未来を拓く原動力	明星大学教授 河合美香 氏	「地域自治」と「共創」とあるが、そもそも相容れないのではないかと。図より、概念が相互に関連し合うことを意図されていると理解したが、誰が見ても関係性がわかる表現に変えたほうが良いと考える。
5	第5回懇談会	未来を拓く原動力	八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏	「未来を拓く原動力」について、市民や民間事業者があまりに表に出過ぎており、行政の立場が見えなくなっていると感じる。行政の役割をより引き立たせる必要があると考える。
6	第5回懇談会	未来を拓く原動力	法政大学教授 淵元初姫 氏	コミュニティ政策分野では、「参加」と「協働」を対比して整理している。その中で、「参加」はコミュニティの中で意思決定を行う、「協働」はコミュニティの物事について汗をかくというニュアンスがある。それを踏まえると、今回の表現には違和感がある。
7	第5回懇談会	未来を拓く原動力	法政大学教授 淵元初姫 氏	「市民自治」や「地域自治」に含まれる「自治」の取扱いは難しいと考える。一般市民からすれば、構えてしまう概念と感じた。「自治」は、「自ら治める」と「自ずから治まる」の両義的な概念があるが、そのいずれなのか、より詳しく説明をする必要がある。
8	第5回懇談会	未来を拓く原動力	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	重要な概念であるにもかかわらず、計画体系図では「未来を拓く原動力」が右側に位置付けられているが、因果関係のフローを踏まえると、図の左側に位置付けるべきものではないかと。
9	第5回懇談会	変革のキーワード	明星大学教授 河合美香 氏	「キーワード」という表現に違和感がある。「変革のキーワード」がなければ施策は実現できないのか、あるいは施策を全て紐づけなければならないかと当初見えてしまった。デジタルはあくまでツールであり、全てをデジタルにする必要はない。デジタルが必要となるところから進めていくべき。全てに横断的に示すことには疑問を感じる。
10	第5回懇談会	変革のキーワード	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	「変革のキーワード」とその説明で使用している「全施策共通のキーワード」は異なる概念ではないかと。「全施策共通のキーワード」と捉えるのであれば、例えば、「サステナビリティ（持続可能性）」等が考えられるが、現状を大きく変えるような「変革のキーワード」と捉えるのであれば、「DX」、「カーボンニュートラル」になり、いずれと捉えるかで選択するキーワードが異なってくるのではないかと。
11	第5回懇談会	変革のキーワード	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	「変革のキーワード」として「DX」が挙げられていたが、行政サービスの効率化が進み、事業者や市民の利便性が今後高まると考えられる。「DX」を契機として、市民や事業者の意見を聴取しながら、行政手続に関する従来の規制や制度を見直す体制を構築していただきたい。
12	第5回懇談会	変革のキーワード	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「DX」や「カーボンニュートラル」は行政運営上の目標と理解してよいか。位置付けや表現はさらに検討の余地がある。
13	第5回懇談会	変革のキーワード	八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏	「みんなで目指す2040年の姿」の達成に向けて「変革のキーワード」が必要であると見受けられる。そうではなく、「みんなで目指す2040年の姿」の達成に向けて必要なことは地域経営の変革であり、それに必要なものが「DX」や「カーボンニュートラル」という位置づけの方がよいのではないかと。
14	第5回懇談会	変革のキーワード	東京都立大学教授 市古太郎 氏	「DX」は施策横断的なキーワードとしてぜひ残していただきたい。
15	第5回懇談会	変革のキーワード	東京都立大学教授 市古太郎 氏	市民生活をより豊かにするためには「データを活用」することが重要であり、市の保有するデータは原則公開いただきたい。
16	第5回懇談会	変革のキーワード	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「市民視点に立つて行政サービスを変革し」とあるが、これが「DX」の定義であり目的であると解釈できる。現在の記載では、技術論に偏りのある印象を受けるため、より大きな目的、例えば、「DX」が「未来を拓く原動力」の「地域自治」や「共創」につながるということを強調する記載あってもよいのではないかと。そうすることで、「DX」の位置付けをよりアピールできるのではないかと。
17	第5回懇談会	変革のキーワード	下村麻子 氏	市役所職員が「変革のキーワード」を掲げて取り組むことが、市民の「未来を拓く原動力」となっていると市の方が皆で取り組んでいる印象を受けてより良いのではないかと感じた。
18	第5回懇談会	変革のキーワード	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	「地域自治」と「共創」は、自身の暮らしとまちに関連付けて言えば、「みなみ野のまちをみんなでつくろう」ということだと考えており、その中では例えば参画型の合意形成プラットフォームをいかに築くかという課題がある。市と市民との協働・共創をどうやっていくかという整理ができればより分かりやすくなると感じた。
19	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏	未来の主役づくりを「子どもだけではなく、高齢者もずっと主役であり続けられる社会にしたい」というように解釈した。そうであるならば、取組方針ウの冒頭に「人生100年時代を想定した」などを明記するとより分かりやすくなると感じた。
20	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	法政大学教授 淵元初姫 氏	当初は取組方針ア、イ、ウを属性別のもので解釈していた。先程の説明にあった通り、必ずしも属性別ではないことがわかる書き方であるとよい。
21	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	法政大学教授 淵元初姫 氏	取組方針ウの「自然に健康でいられる環境」には違和感があり、理解しづらい。表現を再度検討いただきたい。
22	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「自然に健康」は何を意図されたのか。言葉足らずな印象を受ける。「自然に」からは、例えば「自然豊かな」等を想起される方が多いのではないかと。
23	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	取組方針ウに関して、表現は分かりづらいため、国の言葉にそのまま即して、「健康を支え、守るための社会環境の整備」としてはどうか。
24	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	取組方針イに関して、学びの機会を創出するのみでは自己実現は達成されない。経済的な基盤を確保する上では雇用が重要であるため、本来的には雇用という表現を入れるのが望ましいが、限定的にもなることから、例えば「多様な学びと参加の機会を創出し」としてはどうか。
25	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	明星大学教授 河合美香 氏	人生100年時代を踏まえると、「生きる喜び」等の主役となる嬉しさや楽しさに関する表現を追加してはどうか。
26	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	下村麻子 氏	取組方針ウの「自然に健康でいられる環境」について、「自然と健康につながっていく環境」等とすれば分かりやすくなるのではないかと。
27	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏	取組方針ウについて、「地域医療体制を整備する」とあるが、具体的な施策に見受けられる。ここは重点テーマのため、あえて入れる必要はないのではないかと考える。
28	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	法政大学教授 淵元初姫 氏	取組方針ウにおいても「健康格差の縮小」という言葉があれば、それにつながる「環境整備」がより説得力のあるものになると考える。
29	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「～テーマに込めた思い～」について、「つながりによる安心の中で自分のみちをあるけるようになること」とどまらず、個々のできる範囲での社会参加を通じて支える側になっていくことで」とあるが、表現を再考できないか。「自分の望む人生設計ができる」などの言葉に置き換えたほうが良い。
30	第5回懇談会	重点テーマ①及び取組方針	東京都立大学教授 市古太郎 氏	「未来を拓く原動力」について、既に八王子市に「地域自治」や「共創」といった考えの萌芽があるからこそ、今回こういった言葉で事務局が取りまとめたのではないかと。そういった具体的な事例やイメージを交えて、八王子市らしい「地域自治」や「共創」とは何かを提示しただけだと、分かりやすくなるかと考える。
31	第5回懇談会アンケート	未来を拓く原動力	東京都立大学教授 市古太郎 氏	「共創」の参考事例となっている横浜市では、主として企業とのコラボレーションを意図した取組みであり、市民団体と市役所との関係性を意図しているのではないと思われる。一方で、八王子の「共創」では「多様な主体」と表現され、企業も入ることは理解できるが、横浜の「共創」のイメージとは相違するのではないかと。また、地域組織・市民団体と市役所との「主体形成」を意図するのであれば、前段の「地域自治」に含まれる（含めた方が理解しやすい、もしくは前段の「市民自治」含めて「市民協働」とする）内容になるのではないかと。
32	第5回懇談会アンケート	変革のキーワード	東京都立大学教授 市古太郎 氏	市役所が保有する「データ」を徹底的に活用する。そのためにも、これまで以上に積極的に「データ公開」促進を期待したい。市もオープンデータの取組みを進めているが、たとえば「オープンデータを活用したアプリケーション」については、2016年2月の1件のみでその後の追加はない。一方で、7月の伊豆山土砂災害（熱海豪雨被害）への対応として、静岡県が民間とコラボで進めた「点群データ」の取組みは防災DXの取組みとして大変高く評価されている。「変革のキーワード」とする以上、これまでとは異なるスケールと熱意での展開を期待したい。
33	第5回懇談会アンケート	未来を拓く原動力	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	地域において、日々の生活や暮らしのなかの小さな声・想い・アイデア・悩み・困っていること・思い通りにならないことなどを出し合い、共感し、課題を共有し、そこから小さな工夫・プロジェクトを創出することができればと考えた。
34	第5回懇談会アンケート	変革のキーワード	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	企業・大学との「共創」を含めて、DXを推進する優秀な人材の確保が必要だと思う。また、DXだけでは改善できないこと、DXでは改善できないことの見極めも大事だと思う。
35	第5回懇談会アンケート	重点テーマ①及び取組方針	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	これからの時代の教育を語る言葉として「生きる力」は、賞味期限切れのように感じる。
36	第5回懇談会アンケート	重点テーマ①及び取組方針	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	共稼ぎ世帯の子育てを支える政策を具体的にだせるかが問われていると考える。そこには、働く環境の整備とともに、雇用の確保などの課題もあると思う。
37	第5回懇談会アンケート	重点テーマ①及び取組方針	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	児童・生徒の地域の「共創」に加わり、児童・生徒・学生も地域の活動に参加した手ごたえを感じることでできるプロジェクトを実施することも重要だと考える。
38	第5回懇談会アンケート	重点テーマ①及び取組方針	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	「自然に健康でいられる環境…を整備」や厚労省「自然に健康になれる持続可能な食環境づくり」の「自然に…」という言葉に違和感がある。
39	第5回懇談会アンケート	未来を拓く原動力	明星大学教授 河合美香 氏	産業側はProof of concept (POC)という実証実験を協働でできることを探している。市ならではのボトムアップで上がっている課題から、企業やベンチャーを選んで、積極的にウインウインで推進すると良いと思う。これらは早く、軽く始めて、上手くいきそうなところを深く進めるというやり方と、他の自治体の前例を横展開するというやり方がある。技術の進化は激しいので、市のCIOのもとに共創のプロジェクト体制で予算、技術、セキュリティなどの全体推進体制も必要だと思う。
40	第5回懇談会アンケート	変革のキーワード	明星大学教授 河合美香 氏	「社会や行政のあり方を再構築する取り組みを全施策共通のキーワード」にDXを挙げられているのは賛成である。ただし、説明文が行政サービスの変革がコアになっているように読み取れるので、社会（市民の生活）の変革を大集合としてとらえて、その中に行政サービスの変革が部分集合として入るイメージのとらえ方もあるかと考える。サービスのデジタル化は効率化という点からでもここから進んでいくものだが、社会の変革は意識しないと進まない。行政がリーダーシップをとって進めるサービスのDXと市民が中心として進めるDXを行政が支援する仕組みをつくることも付加価値のアクセラレーターになると考える。「社会全体をDXして再構築するために、行政と市民が共創した取り組み」など、キーワードなので全体を示すようにするのはいかがか。